

# 松尾文化祭を生中継

2月4日(土)～5日(日)に行われた松尾地区文化祭にSBCラジオのスタジオが特設され、文化祭の様子が生中継された。会場の松尾公民館は文化祭の来場者に加え、ラジオを聴いて集まった人たちで大にぎわい。放送の後にはSBCパーソナリティ坂橋克明さんの講演会も行われ、大変な盛り上がりを見せた。(文化祭と講演会の様子は2～3面に記載)



SBCラジオ番組「立川談慶と岸山美耶子のともラジ」放送中



発行所  
飯田市松尾公民館  
編集人  
松尾公民館広報委員会  
印刷：龍共印刷(株)

松尾の人口  
男子 5,999人  
女子 6,612人  
計 12,611人  
世帯数 4,590世帯  
2月末現在

昨年、東日本大震災という大きな悲しみに見舞われ、学んだことや気づいたことがたくさんあった。私は成人式の主催者挨拶で、唱歌ふるさとの2番の歌詞を引用した。「いかにいます父母、つつがなしや友がきの歌にあるようにふるさととは、自然の風景はもちろん、肉親や友だちとの絆も含めてふるさとなのだと思います。平成元年NHKが「日本の歌・ふるさとの歌百選」のアンケートを行い、ベストテンを選んだ。その中に長野県出身者の作品や、信州の風景を歌った曲が5曲もあった。この結果を生む風土は、文化度の高さや情緒の深さを示す一面でもあろう。

## 唱歌と信州の風土

さて、長野県は教育県であると言われているが調査によれば、県民の意識はかなり低いらしい。財界人から政治家になった岩国哲人氏の著書『一月三舟』によれば、日本の全町村で最も早く義務教育化したのは長野県であるという。大正時代、白樺派の教師たちによって自由主義的教育運動がおこり、戦後は平和と民主化と自治を目指し公民館構想が社会教育を根付かせていった。教育県といわれる風土はこうして創られていったのだろう。

この2つの風土は共に誇りにしたい風土である。

手で書けば  
5分で書ける

計画書

くパソコン音痴館長く

## 館長コラム

## こんにちは角田です

式典では、力強い太鼓が印象的でした。その太鼓を叩いていた子供たちからのかわいらしいメッセージもあり、「もう大人として見られているんだ」と改めて感じました。来賓の方々からお祝いの言葉をたくさんいただきました。その中で、やはり東日本大震災の話が多かったです。私は、現

地へボランティアに行ってきた、もともと多くの人の援助が必要だと感じました。成人した今、少しでもよいから人の力になれるよう行動していきたいと思っています。来賓の方々の祝辞の後、中学当時の先生方からのビデオレターを見ました。先生たちは変わっていない、懐かし、一人ひとりが独特で、会場は笑顔でいっぱいになりました。

式典後の祝賀会では、ピングをしたり、友達と話をしたりしてとても楽しかったです。実行委員の人たちや公民館の方々が、私たちの見えない所で色々考え準備してくださったことに本当に感謝しています。ありがとうございます。最後に、産み育ててくれた親への感謝を忘れず、これから生活していこうと思います。



祝賀会場にて・左が佐々木さん

# 一生に一度の成人式

平成23年度成人 佐々木 恵理(清水区)



東日本大震災から1年、死者行方不明者が2万人に及ぶ大災害となった。6月以上ある防潮堤のはるか上を大津波が乗り越える映像を見て「備えあれば憂いなし」の格言も想定外という言葉で一蹴された。今なお本格的な復興が始まっていない地域がほとんどで、そこに大寒波が襲ってきた。これも想定外か。被災者の苦痛は計り知れない。振り返ってこの松尾地区、去年は三六災から50年。その後も五八災などいくつかの災害に襲われ大きな被害をだしている。東海地震、大雨による天竜川の氾濫、毛賀沢の増水、野底川松川沿いの決壊、予想される災害はいくつもある。松尾は飯田でも低い地域で当然水も集まって来る。避難場所はもちろん避難経路や子供、お年寄りの誘導、道路が寸断された場合の迂回路、ライフラインが切断された時の連絡方法や水、物資の調達支援、それらの周知方法など考えなければならぬ。災害は大なり小なり必ずやってくる。小さな地域だからこそできることがある。皆で知恵を出し合って自分をそして松尾の住民を守ってほしい。結果「想定外でした」では震災の教訓は生かされない。







幡宮舞姫による「浦宿の舞」



常盤太鼓「心SHIN」「伊那谷あばれ天童」



丸山基治文化委員長

「多くの方に来場していただき大盛況の文化祭になりました。ありがとうございました」



松尾地区文化祭



育成会・松尾サイエンスおもしろ科学教室  
「フカッパが変化」



ダンスサークル Y-Spirits「ブレイクダンス」



八幡町区はとみね座  
水戸黄門漫遊記「松の木騒動の巻」



食生活改善推進協議会  
「バランスはいいかな？」



上溝区 健康塾「祭り」



代田民謡クラブ「皇女和宮」



全員合唱「ふるさと」



社会福祉会の展示では、委員の森本絢さんと民生委員の飯野美代子さんが「社協では毎月会員と健康体操をしたり交流した子供たちにお土産として渡す手作り小物を作ったりします。大変ですが楽しくやっていますよ」と話した。



「おいしい」と舌鼓を打っていた。  
区民は皆  
振る舞い、  
炒め煮を  
にやくの  
作りこん  
ちたてのソバや会員特製手

新井区文化祭では、史学会や区の活動記録写真の展示や高齢者クラブの繭玉、各種団体の編み物やアクセサリーの他、個人の絵画や写真、書道などを展示した。男の料理教室会場では打ちたてのソバや会員特製手

「日頃の成果を見てってな！」

新井区

代田区

各地区でも文化展

多種多様な作品が勢ぞろい



代田区文化展では高齢者クラブによる「三匹の子犬」をテーマとした毛糸の手芸や水引手芸、押し花、書道、水墨画、風景写真など200点ほどが展示された。どれも丹精込めて製作されたもので、多種多様な作品が目についた。中には、この日のためにフィンランドのオーロラ鑑賞ツアーに参加し、苦心の末写真に収めた作品も出展された。今年度は、行事写真がブログエクターでステージに映し出され関心を引いた。役員によるお汁粉も振る舞われ鑑賞後に多くの人が立ち寄り会場をあとにした。



## SBCパーソナリティ・坂橋克明さん講演会 「信州人ってこんな人なんだに」



2月4日松尾公民館ホールにて、文化祭企画として松尾まちづくり委員会主催による講演会が開催された。講師には、SBCラジオ「坂ちゃん」のすぐだせえぶりでい」パーソナ

リティーでおなじみの坂橋克明氏を迎え、300人を超す聴衆で満席となった。演題は「信州人ってこんな人なんだに」。

地域のまとまりづくりや地域の発信づくりについて坂ちゃんからの問いかけもあり、ユーモアを交えながら聴衆と一体となって講演会は進んだ。

長野県の特徴である山に触れながら、「周りを意識するために独創性がない。個性を大事にすべきである」「身の回りの物を見つめ直すことの大切さ」、「子供たちにも地域の宝を教えて触れさせ、良い物を外に広げる機会をつくることの重要性」の他、「クチコミは無料の広告であり、自分たちの宝を考えて広告マンになって、豊かな自然・食・景色・文化などを、どんどん自慢し外に広げることが大

切である。」

「前に進むことが大切。とにかくやってみよう。トライしよう。『どうせ』より『とにかく』の精神を全面に出そう。」と熱く語った。

あつという間の90分坂ちゃんの講演会は大盛況のうちに幕を閉じた。



講演後ファンと握手する坂ちゃん



松流雛子保存会「玉神頭・松風・大拍子」



ミニSL2乗ろう!!



文化委員会「おしるこ提供」



恵方で仕事をしてくれた中学生ボランティアの野網莉子さん(明区・緑ヶ丘中2年)



体育委員会「AED講習会」



伊那谷健康友の会「骨密度・体組成測定」

部会長の丸山正敏さんによれば「周りを山で囲まれているため松尾は緑が多いと錯覚しがちだが、航空写真で見ると、現存する緑は

た。

区の方針を正式決定、要望書として市長に提出し「飯田市土地利用基本方針」に組み込んでもらう意向だ。開発規制や危険区域指定も検討したいとしている。

## 協働で保全を 急傾斜地の防災も

一方、ここは古墳や史跡も多く、散策には恰好の場。各種イベントに活用したり、里山学習をしたりと利用価値は高い。

佐々木寿夫委員長は「子供の頃ここで遊んだ世代はもちろん、山を大事にしよう意識を次世代が引き継いでいってほしい」と熱く語る。

今後は部会からまちづくり委員会に提言し、松尾地

まちづくり委員会の土地利用計画検討委員会森林部会は「松尾のシンボルを守ろう」との思いから、緑地の保全方法・関わり方について慎重な検討を重ねてきた。部会ではそれぞれに事情が違う4地区(県の保安林指定を受けている代田、八幡宮のある八幡町、宅地開発が進む毛賀・久井)に分かれ現状を分析。専門家を交えた現地調査も行い、このほど「地権者の理解を得た上で、まちづくり委員会が中心となり地域の人と協働で管理、自然環境・景観を保全していく」考えをまとめ、説明会や各戸配布で周知を図った。

## グリーンベルト 緑地帯は 松尾の財産

「松尾のシンボルを守ろう」との思いから、緑地の保全方法・関わり方について慎重な検討を重ねてきた。部会ではそれぞれに事情が違う4地区(県の保安林指定を受けている代田、八幡宮のある八幡町、宅地開発が進む毛賀・久井)に分かれ現状を分析。専門家を交えた現地調査も行い、このほど「地権者の理解を得た上で、まちづくり委員会が中心となり地域の人と協働で管理、自然環境・景観を保全していく」考えをまとめ、説明会や各戸配布で周知を図った。

も、共通課題との意識が芽生えているという。



年生以下の部）に出場した新井区の丸山美遥さんと明区の下平瑞希さんは緑ヶ丘中学校の2年生だ。朝練習は7時20分から。学校の部活が終わってからも社会体育で練習に励んでいる。美遥さんは「卓球を始めたのはお兄ちゃんについて行ったらおもしろそうだと思ったから。今の目標は中体連で県大会に行くこと。できれば全国大会に行きたい」と、はにかみながら話した。